

2013年漁業センサスに関する統計委員会答申における指摘と対応方針

統計委員会の指摘	対応方針案
ア OCR対応調査票の導入に伴う公表早期化の検討 今回のOCR対応調査票の導入により、調査票のデータは、従前の各都道府県におけるパンチ入力後に農林水産省に報告する方法から、農林水産省においてデータをOCRにより一括入力し、新たに入力データを都道府県にフィードバックし確認してもらう方法に変更される。 これに伴う公表の早期化に関し、今回の本調査の集計業務等を行う中で、調査票の回収後のデータ入力から公表に至るまでの期間が従前と比べ短縮可能かどうかについて検証し、その結果を踏まえ、次回の本調査（2018年調査）の企画までに、公表の早期化を検討する必要がある。	● OCR対応調査票の導入に伴う公表の早期化に関し、2013年漁業センサスにおいて検証したものの、読み取り精度が悪く修正に時間を要し、データ入力から公表に至るまでの期間の短縮にはならなかった。このため、2018年漁業センサスにおいては、OCRを継続するか否かを含め検討することとしたい。 なお、公表の早期化については引き続き検討する。
イ インターネットを用いた回答方式の利用向上に向けた対応策の検討 インターネットを用いた回答方式（以下「オンライン調査」という。）については、前回(2008年)の本調査の際、事業所を対象とした流通加工調査（魚市場調査票及び冷凍・冷蔵、水産加工場調査票）において導入されたところであるが、その利用率は1%未満という極めて低い結果となっている。 このため、今回の本調査でオンライン調査を実施する際に、利用促進が図られていない原因の把握を行い、次回の本調査（2018年調査）の企画までに利用向上に向けた対応策を検討する必要がある。	● 2018年漁業センサスにおいては、調査対象における回答方法の選択の幅を広げるため、すべての調査においてオンライン調査（電子メールによる調査を含む。）の導入を検討。 ● 2013年漁業センサスにおけるオンライン調査の状況（別紙）等を踏まえ、以下の対応により利用向上を図る。 ・ 調査の広報段階で、パンフレットにオンライン調査が可能であることを記載するなど、PRに努める。 ・ 調査員からオンライン調査のメリットを確実に伝えるとともに、IDを全ての調査対象へ配布を予定。 ・ 操作ガイドの簡易版を作成・配布し、操作ガイドを読む負担感を軽減させる。 ・ オンライン調査票をPDF形式からHTML形式へ変更することや画面遷移をスムーズにするなど、操作性の向上を図る。

2013年漁業センサスにおけるオンライン調査の状況

- 対象調査：流通加工調査（魚市場調査（859）、冷凍・冷蔵、水産加工場調査（10,096））
- 利用率：1.9%（魚市場調査 12客（1.4%）、冷凍・冷蔵、水産加工場調査 197客（2.0%））
- アンケート
利用率が低調であることについての原因把握のため、流通加工調査の調査対象に対し、アンケートを実施。
結果は以下の通り。

① オンラインにより回答するか否か

	アンケート提出客（有効回答）	オンラインにより回答するとした客	紙の調査票により回答するとした客
魚市場	589(100.0%)	20(3.4%)	569(96.6%)
冷凍・冷蔵、 水産加工場	6,618(100.0%)	274(4.1%)	6,344(95.9%)

② 紙の調査票により回答する（オンラインを利用しない）理由（複数回答）

	紙の調査票の方が簡単に回答できそう	操作ガイドを読むのが面倒	調査内容の入力に至るまでの操作が面倒	セキュリティが不安	インターネットが利用できる環境にない	パソコンの操作が苦手	その他
魚市場	83.3%	29.5%	20.6%	5.8%	8.3%	8.8%	7.7%
冷凍・冷蔵、 水産加工場	75.2%	27.1%	19.9%	5.5%	12.7%	16.4%	7.6%